

増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯の 新たな調査研究に基づく審議の結果について（その2）

平成25年12月10日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

地震調査委員会は、これまで、社会的、経済的に大きな影響を与えると考えられるマグニチュード（M）7以上の地震を引き起こす可能性のある110の基盤的調査観測の対象活断層帯（主要活断層帯）について、長期評価を行ってきた。

増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯については、平成15年7月14日に評価を公表しているが、その後、地震調査研究推進本部は、「今後の重点的調査観測について（一活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方）」（平成17年8月30日）の中で、基盤的調査観測としての活断層調査の追加的または補完的な調査の必要性、候補となる断層の考え方を示した。

増毛山地東縁断層帯は補完調査の候補となる断層の一つとして示されている。

このことから、平成20年度に文部科学省からの委託で、北海道立地質研究所・産業技術総合研究所による補完調査が実施された。地震調査委員会では、この調査結果に基づいて標記断層帯の評価について審議したが、これまでの長期評価を見直すべき新たな知見は得られていないと判断し、評価の改訂は行わないこととした。

なお、審議の結果については新たに追補としてとりまとめた。

増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯の評価（追補：その 2）

（説明）

・増毛山地東縁断層帯の過去の活動について

北海道立地質研究所・産業技術総合研究所（2009）は、増毛山地東縁断層帯の過去の活動を
確認するため、雨竜地区及び浦臼地区において地形・地質調査を実施し、断層の活動時期
及び平均変位速度等を報告した（図 1）。雨竜地区では、トレンチ、群列ボーリング調査に
おいて、明瞭な断層が確認されず、累進的な活動の可能性が示唆されたものの、活動時期は
特定されなかった。一方、浦臼地区での群列ボーリング調査では、撓曲崖とされた崖の地下
には断層を示す地質構造は認められず、1 万年前以後に活動した可能性は低いとした。

しかしながら、浦臼地区での調査結果は 1 万年前以後の活動を否定する根拠にはならない。
また、新たに報告された平均変位速度は、従来の評価（1 m/千年以下）を覆すものではな
い。そのため、増毛山地東縁断層帯の長期評価を見直すべき知見は得られていないと判断し
た。

本断層帯の位置、性状や活動履歴、地下構造、南西方に位置する当別断層との関係につい
ては依然として解明が進んでいない。深部地下構造や広域の変動地形にも留意して、さらな
る調査が望まれる。

なお、沼田－砂川付近の断層帯についての評価については、地震調査研究推進本部地震調
査委員会（2003, 2008）を参照されたい。

文 献

- 北海道（1998）：「平成 9 年度 地震関係基礎調査交付金 増毛山地東縁断層帯及び函館平野西縁断層帯
に関する調査 成果報告書」. 60p.
- 北海道立地質研究所・産業技術総合研究所（2009）：増毛山地東縁断層帯の活動性および活動履歴調査.
「活断層の追加・補完調査」成果報告書 No. H20-2.
- 池田安隆・今泉俊文・東郷正美・平川一臣・宮内崇裕・佐藤比呂志編（2002）：「第四紀逆断層アトラ
ス」. 東京大学出版会, 254p.
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2003）：「増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯の評
価」. 21p.
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）：「増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯の評
価（追補）」. 3p.
- 産業技術総合研究所（2007）：増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯の活動性および活動履歴
調査「基盤的調査観測対象断層帯の追加・補完調査」成果報告書. No. H18-2, 15p.



図1 増毛山地東縁断層帯・沼田-砂川付近の断層帯の位置と主な調査地点
 1：雨竜地区 2：浦臼地区（北海道，1998）※

●：断層帯の北端と南端

活断層の位置は池田ほか編（2002）に基づく。

基図は国土地理院発行数値地図200000「留萌」「旭川」「札幌」「夕張岳」を使用。

※：地震調査研究推進本部地震調査委員会（2003）に示された調査地点